

2019 年度 都市環境デザイン会議 公募型プロジェクト

〈第 7 回 JUDI 研究発表会〉

プロジェクト発表 梗概

2020 年 12 月 19 日

発行：都市環境デザイン会議

2019 年 JUDI 公募型プロジェクト助成金 〈第 7 回 JUDI 研究発表会〉

プロジェクト発表プログラム

2020 年 12 月 19 日 (土)			備 考
15:50～ 15:55	趣旨・発表手順の説明（谷口理事）		兼司会
15:55～ 16:13	発表①（岡本壮平） 文化的集落景観の変遷に関する調査・考察		関西ブロック (文化的集落景観研究会)
16:13～ 16:31	発表②（斉藤 浩治） 魅力再発見！東北酒蔵プロジェクト（第二期）		東北ブロック
16:31～ 16:49	発表③（濱田 幸佑） 中国の都市環境デザイン事例集とモデルコース作成 (岡山県編)		四国ブロック (高知工科大学)
16:49～ 17:07	発表④（清水 美沙） 千里南公園のパークマネジメントに向けた社会実験		関西ブロック (関西大学)
17:07～ 17:25	発表⑤（鰐 隆弘） 自然物が創る街 2		北陸ブロック
17:25～ 17:43	発表⑥（柳田 良造） ローカル線の環境デザインセミナーⅢ		中部ブロック

注 1) 各発表の持ち時間は、説明 12 分＋質疑応答 5 分＋交替 1 分＝計 18 分。

注 2) 2019 年 JUDI 公募型プロジェクト助成金を受けた 9 プロジェクトのうち、3 プロジェクトは新型コロナの影響で現時点未了です。本日は業務完了した 6 プロジェクトについての発表となります。

文化的集落景観研究会

～文化的集落景観の変遷に関する調査・考察～

関西ブロック 若本和仁

1. プロジェクトの目的

グローバル化と並行してローカル化が進み、ツーリズム等でローカルな場所が消費の対象となっている。そうした状況における伝統的集落（都市化したものを含む）の変遷と現状を把握し、今後の文化的集落景観のあり方について考察することを目的とした。加えて、過去の研究（復興の姿研究会及び災害の記憶研究会による津波常襲地の集落並びにネパールを含む中山間地の地震被災地集落調査）を含めた文化的集落景観アーカイブスの整備を試みた。

2. 調査対象と行程

2-1. 調査対象

地中海沿岸、特にイスラム圏については、ヨーロッパやアジアに比べて日本での研究や紹介文献が少ないと思われることから、トルコ共和国、アルジェリア民主人民共和国の歴史的集落（図 1）を調査した。

2-2. 行程

2019 年 9 月に以下の行程で、集落を調査した。

17 日～20 日 トルコ共和国（ブルサ、ジュマルクズック、イスタンブール）

21 日～25 日 アルジェリア民主人民共和国（アルジェ、ワルグア、ガルダイヤ）

3. 調査報告

Facebook のイベントページを活用し、主に集落ごとに調査の報告を作成している。記事の総数は 30 以上にのぼるため本稿では記事の要約を集落ごとに示す。詳細は後述の web サイト「文化的集落景観アーカイブス」からご覧いただきたい。

3-1. ブルサ

14 世紀初めオスマン帝国がビザンティン時代の城郭を初期オスマン建築の伝統的手法で造り替えた建物が並ぶ古都である。城砦跡は市街地となっており、残されている城壁や石垣、城門（写真 1）が現在の生活や営みに溶け込んだ景観を形成している。例えば、伝統的な建築物を改装したと思われるホテルやレストラン（写真 2）も多く立地しており、多くの旅行者が滞在する人気のスポットになっている印象があった。地元市民にと



図1:調査対象地

っても親しまれているようで、我々が宿泊したホテルにあるレストランには、旅行者だけでなく、家族や団体、カップルが訪れていた。



3-2. ジュマルクズック

ブルサ郊外のトルコの伝統様式の家屋（写真3）がよく残る集落で、いくつかの様式が積み重なるブルサとは異なり、その変わらない姿により観光地化が進んでいる。



伝統的な様式は道路に面した壁面に見られる。1階（石積み）と2階（木造土壁もしくは木軸に石を積み左官で仕上げ）で材料が異なることに加え、1階の壁面に対して2階の片持ち部分の長さが異なり、下から見ると三角のハングオーバーがある。2階壁面は道路境界とほぼ同じ位置にあるように見受けられるが2階が雁行して路上に突き

出ているようにも見えるので、基準がどこにあるのかは不明である。この様式は新築（写真4）においても継承されている。



3-3. イスタンブール

ブルサ同様にローマ・ビザンティン時代の市街地にオスマン帝国の様式が積み重なった都市である。現在でもその延長にあると思われる都市や建築のデザインが多く見られる。例えば、ジュマルクズックで見られた不思議な壁面の雁行はトルコの伝統的な意匠とのことだが、イスタンブールの新しい建築にも、様々な要素とともにそれが取り入れられている（写真5）。また、至る所にローマ以来の遺跡がみられ、千年を超える歴史を感じることができる。



3-4. アルジェ

地中海沿岸の都市や集落は頻繁に支配者が変わっているが、アルジェの景観には16世紀以降のオスマントルコ、19～20世紀のフランスの影響を見ることができる。海に面する斜面に迷路のような空間が広がることで著名なカスバ（写真6）（ガイドによれば、集落という程度の意味らしく、地中海沿岸にはそう呼ばれるものがいくつもあがあるが、原型を留めているのはここだけで、その他は地震により破壊され観光用に再整備されたものとのこ

と)は主に前者の時代のものが多くを占める。カスバ内の建物は仕上げも構造も老朽化が著しく、支柱等の処置が施されているものも多くあった。また、結果として除却されたものもいくつもあり、跡地が公園として整備されていた(写真7)。



カスバの海側にはフランス人が建設した港湾施設と街(写真8)がある。彼らはカスバの一部やその他周辺でも整備を行っているが、拡張した市街地に新たな都市を築いた。これらの建築物は独立運動の際に持ち主がフランスに帰国し所有者が存在しなくなった後、周辺住民が占拠し今に至っているとのことである。意匠性も高く、活用のために修復が進められているものも多く見られた。

3-5. ワルグラ

サハラアトラス山脈の南側にある、中東と大西洋沿岸を結ぶ重要な交易路に位置するオアシス都市として繁栄した。近傍に石油産出地があり、現在も経済的に豊かな地域で、旧市街地周辺の広い範囲で新市街地が造成されている(写真9)。観光

目的での来訪者はほぼいないが、砂漠の都市の現在を見ることのできる興味深い街である。

城壁で囲まれた約40haの旧市街地は、伝統的な空間構成が概ね維持されつつ、必要な近代化(例えば市場(写真10))や更新が進められているようである。1階の店舗を使いながら2階を作ったり改修したり、一部を壊していたり、常にアンダーコンストラクションである(写真11)。周辺ではナツメヤシが栽培され、果実(デーツ)や、油を製造し、住宅資材にもなっており、市場でそれらと郊外で生産された野菜が交換されている。



3-6. ガルダイヤ

ムサブの谷の5つの集落で構成される。これらは戦乱を逃れたムスリムによって1012年から1350年に建設された。複雑な街路、ヒューマンスケールな直方体が積み重なった建築空間にシンボ

リックなミナレットのあるユニークな景観は、厳しい戒律により守られてきた。現在は観光も重要な産業となっているが、伝統的な生活を守るため、立ち入れたのは現地ガイドのいる EL-Atteuf (写真 12) と Beni-Isguen のみであった。



集落は時代とともに拡大しており、現在ではそれぞれが近接するため、区別しにくくなっているが、いずれの街も伝統的集落、墓地、ヤシの果樹園で構成されている (写真 13)。谷を囲む台地には新市街地が形成され、伝統的な意匠を取り入れた住宅も多く建設されている。ガイドによれば、こうした新興住宅地の人気は高いとのこと。

3-7. 考察 主に景観の変化について

ブルサとイスタンブール、アルジェはその歴史から、異なる文化・文明が共存する景観を形成している。それらは文化として、また付加価値として認められているようで、修復や利活用、新築時での意匠の配慮が見られる。

ジュマルクズックは周辺含め変わらないことが価値となって観光地化が進み、新築においても意匠や構法、材料等が維持されている。

ワルグラとガルダイヤでは、変わらない旧市街地とは別に新市街地が形成されている。これらは異なるものが共存する先の 3 都市とは違い、新旧の分離が強いと感じられた。油田開発のような過去との連続性のない産業の発展、外来者の定住、

それによる生活習慣の変化や新旧住民間のコンフリクトあるようで (ガルダイヤでは、新旧住民のコンフリクトや地域の持続可能性に貢献する新産業創出 (例えば農業) が課題としてあげられていた)、旧市街地の景観の変化や今後の地域にとっての位置付けが気になるところである。

(主観的な印象に過ぎないが、) 訪問した都市だけでも景観変化にいくつかのパターンや要因があることが示唆された。こうした蓄積が都市環境デザインの向上に資する視点の獲得につながることを期待している。

4. 文化的集落景観アーカイブス整備の試み

4-1. 構成

調査の記録を容易に残せるよう、記録の作成には前述のとおり Facebook のイベントページを活用した。しかし、イベントページでは記事が作成順に並ぶだけとなり、記事の全体像の把握や検索には向かず、過去の調査記録も含めた情報整理も難しいことから、調査報告と地図情報のリンク先をインディックスとして整理したホームページ

<https://judi-study-group-for-cultural-landscapes.jimdosite.com>

を作成し、そこから Facebook の記事にアクセスできるようにした。

4-2. 掲載するコンテンツ

今回の調査と 2016 年のネパール連邦民主共和国の調査を掲載した。今後も既存のものや新規のものを加えて充実させたいと考えている。

4-3. アクセスについて

掲載する情報は JUDI 会員の交流のためのものであり、学術的に確定したものではないため、不適切な引用等を防止する目的から、ホームページは一般公開としているが、リンク先には制限をかけている。リンク先にアクセスしたい場合や、同様の記事を投稿しコンテンツの充実に参加されたい場合は、以下に問い合わせてもらいたい。

<問い合わせ先>

*コンテンツの閲覧・編集に関すること

柴田祐 shibatayu@pu-kumamoto.ac.jp

*リンク設定等ホームページに関すること

若本和仁 wakamoto@mit.eng.osaka-u.ac.jp

魅力再発見！東北酒蔵プロジェクト 第二期

～秋田県南部の酒造りと発酵文化～

編集総括：東北ブロック 斉藤浩治
(東北ブロック+北陸ブロックの共同事業)

1. プロジェクトの目的

酒造りは、地域の資源を活用した世界に誇れる「日本の食文化」のひとつである。このプロジェクトは、東北地方における酒蔵とその周辺のまち並みの現状を調査し、酒造りから見えてくる「土地の力」、「食文化の力」、その背景にある「文化的コモンズ」の評価を行って、未来につながる新しい魅力を発信することを目的とする。

なお、このプロジェクトは東北ブロックと北陸ブロックの共同事業である。

2. 第二期(2019-2020)の活動概要

◆対象範囲：秋田県湯沢市および横手市

- ・活動の地域を拡大し秋田県の醸造文化を調査する
- ・活動の着眼点を醸造から醗酵へと広げる



出典：国土地理院HP

◆活動概要

①前期活動(2019年10月-2020年2月)

- ・秋田県南部(横手、湯沢)の酒造りと発酵文化
 - (1)よこて発酵文化研究所ヒアリング
 - (2)湯沢市内の酒蔵めぐり
 - (3)重伝建「増田蔵町通り」を探访

◇活動の一時休止(2020年3月-5月)

②後期活動(2020年6月-2020年8月)

- ・電話ヒアリング(福島市醗酵文化研究所)
- ・リモート研究会(発酵食品と地酒)

3. 活動の内容

(1)「よこて醗酵文化研究所」ヒアリング

◆日程：2020年2月7日(金)

◆場所：(株)丸幸 横手市卸町8-4

◆応対者：多賀系所長

原氏(横手市農業振興政策課)

◆ヒアリング内容

・醗酵食品の普及活動を目的として平成16年に設立。同年に「発酵まつり」を地元開催。その後全国各地に展開し、平成20年に全国発酵食品サミット開催へと発展。全国各地にある発酵のまちを舞台に毎年サミットを開催している。

・横手市は下記の3つを目標に掲げて「発酵文化のまちづくり事業」に取り組んでいる。

①発酵技術により元気な農作物をつくること

②発酵技術の応用により新しい産業を興すこと

③発酵食品を食べて市民は健康に暮らすこと

・今でも街の各所に麴屋があり、日本酒や味噌造りだけでなく、新しい発酵食品開発などを地域ぐるみで取り組んでいる。そのような活動によって生まれたものが下記の商品である。

◆「熟成味噌ディフェンシン」

横手市内で同じ志を持つ6軒の麴屋が結集して開発した。地元産の秘伝豆を100%使用し、醗酵を止める酒精の添加や熱処理をしていない酵母が生きている「生味噌」である。



(2) 湯沢市内の酒蔵めぐり

◆日程：2020年2月8日(土)

◆場所：秋田県湯沢市

◆訪問した酒蔵

①(株)木村酒造 銘柄：福小町

②秋田銘醸(株) 銘柄：爛漫

③両関酒造(株) 銘柄：両関

④秋田県醗酵工業(株) 銘柄：一滴千両



奥羽山脈と出羽山地に囲まれた横手盆地は、美郷町六郷湧水群に代表される名水が豊富な地であり、「あきたこまち」で知られる米どころでもある。

湯沢市には、歴史ある酒蔵や地元有志が集まり酒づくりを復興した酒蔵もあり、毎年2月に開催される「犬っこまつり」に合わせて酒蔵を開放し、多くの日本酒ファンで賑わう。

4軒の蔵はいずれも独自の歴史と酒づくりへのこだわりがあり、県産の酒造好適米を多用するなど、地域との繋がりを強く感じさせるものである。



木村酒造



利き酒コーナーの賑わい

(3) 重伝建「増田蔵町通り」を探访

◆日程：2020年2月9日(日)

◆場所：横手市増田地区

◆内容：

明治～昭和にかけて商人の町として栄えた増田地区は、間口が12～15m、奥行き100～110mの短冊状の敷地が連なり、中でも、母屋の中に鞘で覆われた内蔵、裏庭に外蔵があるという立派な商家が10軒ほど今に受け継がれている。

増田地区で唯一の醸造元の日丸醸造では、公開されている内蔵を見学、その立派さに驚かされた。また、戦前まで酒造業を営んでいた木造三階建て住宅の旧石田家は、丁寧な説明を聞きながらじっくり見ることができた。



雪景色の増田地区



日丸醸造の内蔵

(4) リモート研究会の開催

移動自粛期間でも活動を絶やさないことを目的として、リモートによる研究会を開催した。

◆日程：2020年8月19日（水）

◆参加者：

東北B：斉藤、伊藤、峰

関東B：天野

北陸B：埴、上坂、鰐、高田、新田川

◆研究会の内容：

- ・各自が推薦する地元の「お酒と発酵食品」の現物を手元に用意して、その良さをアピールする。
- ・発酵食品と関わりが深い街並みを紹介する
- ・WEBを通して、飲みながら食べながらフリートーキングで情報を共有する。

◆参加者の発表内容

<東北ブロック>

① 宮城 松島周辺の地酒と発酵食品 斉藤

【地酒】雪の松島大吟醸

【発酵食品】ほやの塩辛



② 北海道 ビールと発酵食品：伊藤、峰

【ビール】サッポロビール黒ラベル

【発酵食品】チーズ、漬物、松前漬け

<関東ブロック>

③ 発酵食品とまちづくり：天野

酒蔵は街並み景観や観光資源としても重要な役割を果たしている。富士宮市の高砂酒造は、市の第1号の景観重要建造物に指定された。

<北陸ブロック>

④ 石川 ふぐの子糠漬け：埴

【地酒】天狗舞 純米大吟醸

【発酵食品】ふぐの子糠漬け

猛毒を持つ「ふぐの子(卵巣)」を塩蔵した後、糠漬けにして無毒化した食品。



⑤ 金沢 発酵食品と地酒：上坂

【地酒】加賀鶴 純米酒

【発酵食品】こんか漬け

うるめいわしの頭を除去し塩蔵したあと、糠・麴・唐辛子を入れて1年以上発酵熟成させたもの。



やちや酒造（北国街道沿い）

⑥ 能登・金沢の発酵食品：鰐

【地酒】手取川 純米吟醸 石川門

【発酵食品】いなだ いしる 漬物

⑦ 白山地区 地酒と豆腐：高田

【地酒】菊姫 山廃純米酒

【発酵食品】白山堅豆腐の

味噌和えステーキ



⑧ 街道沿いの酒蔵：新田川

【北国街道】吉田酒造、金谷酒造店、高砂茶寮

【鶴来街道】小堀酒造、菊姫合資会社

4. 今後の活動

◆2020年公募型プロジェクト

「醗酵文化から読み解くまちの姿」へ発展

【目的】

日本各地の発酵文化とまちづくりの関係を読み解く

【内容】

- ・各地の発酵食品は、重要な要素の塩、適度な湿気、そして地形と気候風土により作られている。
- ・この成り立ちは地域ごとのまちの構造と密接な関係があると考えられる。江戸時代には全国各地から街道や舟運を通して発酵食品が運ばれたことから、街道が果たした発酵文化とまちづくりの関係にも着目する。

以上

中国地方の都市環境デザイン

～事例集とツアーモデルコース作成 岡山県編～

四国ブロック 高知工科大学
景観デザイン研究室

1. 背景

都市環境デザインは、建築、土木、造園などの分野を超えた共同作業で成り立っている。

多分野にわたる事例調査は事前調査、現地調査から事例の理解を深めることが必要であるため多大な時間と労力を要すると考えられる。分野横断的に事例をまとめた資料があれば事例学習や調査も捗る。

2. 目的

前年度に引き続き、中国地方、岡山県に現存する建築物、土木構造物及び都市景観に関して、情報を掲載した資料集と見学ツアーのモデルコースを作成し、web上で公開することである。

3. 作業工程

主な作業工程は以下の通りである。
(詳しくは次項より記述する。)

- ① 事例集とマップ作成
- ② 現地調査とツアーモデルコース選定
- ③ リーフレット・ホームページ作成

4. 事例収集とマップ作成

書籍やインターネットを利用して、岡山県に現存する建築物や土木構造物、文化遺産等の情報を収集し、以下の項目を整理した。

- 名称
- 緯度・経度
- 参考書籍、参考書籍
- 種別

収集した事例の緯度・経度の情報を Google map に落とし込み、事例マップを作成した。

5. 現地調査とモデルコース作成

収集した事例を優先度の高いものと低いものに分類し、優先度の高いものから視察を行う。

広大な面積を誇る岡山県を6つのエリアに分けて、それぞれのエリアの中でコースとして成立する事例の調査を行うことにした。(図1) エリア内のコース選択には、以下の条件を有するものにした。

- 都市環境デザインとしての価値や魅力があるもの
- 優先度の高いもの(建築・土木遺産、文化財など)
- 見学不向き(住宅や病院など)でないこと、見学に特別な許可を有しないこと。
- 付近での駐車場がある程度確保されていること。



鬼ノ城周辺調査の様子

厳選されたモデルコースは以下の通りである。

- | | |
|----|--|
| 真庭 | ①湯原ダム
②神庭の滝
③勝山の船着場
④旧遷喬尋常小学校 |
| 岡山 | ①岡山城
②岡山後楽園
③三野浄水場
④半田山配水地
⑤大原橋 |
| 高梁 | ①JR 伯備線方谷駅駅舎
②備中松山城
③頼久寺庭園
④成羽美術館
⑤吹屋ふるさと村 |
| 備前 | ①三石の煉瓦拱渠群
②旧閑谷学校
③大滝山三重塔
④餘慶寺本堂
⑤西大寺 観音院 |
| 美作 | ①津山郷土博物館
②旧梶村氏庭園
③津山城
④城下町 城東
⑤総社本殿
⑥苫田ダム |
| 総社 | ①備中国分寺五重塔
②旧山手村役場
③井風呂谷川砂防堰堤
④鬼ノ城 |

6. リーフレット・ホームページの作成

前年度までのリーフレットにおけるデザインから中国地方の第一弾を飾るモデルコースを分かりやすく表現したリーフレットのデザインにした。

リーフレット (A4サイズ裏表)

真庭編、岡山編、高梁編、備前編、美作編、総社編がそれぞれ6つのエリアごとに構成される。ホームページから簡単にダウンロードでき、サイトの閲覧者が印刷して使うことができる。

ホームページ

メニューバーから今後の調査を考慮して岡山県以外の中国地方の他の県への閲覧を可能にした。

各モデルコースの紹介ページや各事例の紹介ページ、建築・土木などのその他分類ごとでの事例検索が可能である。また文字や文章よりも、画像で閲覧者を引き込むようなホームページを心がけた。

7. 今後の活動

今期は、岡山県を調査対象に行った。来期以降は、広島県を考えていたが、社会情勢から実行できる見通しが無い。

現在リーフレットは1箇所のみで作成に留まっている。残りのコースも作成しホームページを完成させる。



ホームページ (メインページ)



ラインナップ

真庭編 ドライブコース

1 湯原ダム

重力式コンクリートダム。洪水調節および発電を目的とし、最大出力約2万4千kWの発電を行っています。湯原ダムの下には露天風呂「名泉砂湯」があります。

↓ 車で約40分

2 神庭の滝

「日本の滝百選」にも選ばれました。高さ110m、幅20mの中国地方随一のスケールを誇る名瀑です。

営業時間：8:30～17:15
料金：大人300円、中学生以下150円

↓ 車で約10分

3 勝山の船着場

勝山城の城下町として栄えた船川には高瀬舟が行き交っています。現在も河時には白壁づくりの家並みが続き、整備された巻石護岸がとても美しいです。

↓ 車で約20分

4 旧遷喬尋常小学校

1907年にルネサンス様式の木造校舎として建てられました。完全なシンメトリー（左右対称）のデザインの白亜の外観が印象的な学校です。



リーフレット 真庭編

千里南公園のパークマネジメントに向けた社会実験

～大阪府吹田市千里南公園を対象として～

関西ブロック 清水 美沙

1. 目的

「公園での市民の活動を定着させる」

2016 年度から行ってきた社会実験では、吹田市花とみどりの情報センターの役割である「みどりのシンクタンク」の一環として、公園での様々な風景を作るためのコンテンツや取り組みを展開してきた。

また、今年度からは新たに『すいた公園「つかう」プロジェクト』（以下、『公園つかう PJ』）が開始し、公園でより多くの活動を生みやすくする窓口が作られた。

そこで、千里南公園を対象とし、『公園つかう PJ』と協力しながら公園でやりたいことを生み出す「きっかけづくり」の社会実験を行う。

これを通して市民の活動を定着させ、市民が自由に「公園でやりたいこと」ができるマネジメントの手法の確立を目指す。

2. オソト de サンパを実施

【活動実施項目の概要】

サンパとは、フランス語で「いい感じ」という意味。公園で好きなこと、やりたいことを公園利用者と共有したい人を募集(出展者とよぶ)し、市民の公園使いをサポートする。サポートでは、初めての出展者や、まだ単独での出展に不安を感じている人を主な対象とし、出展方法や段取りを一緒になって考えたり、備品を貸し出したりすることによってサポートする。その後は、出展者の方が自力で備品の用意や出展ができるように、掲示板や SNS などでも利用しアドバイスなどというかたちでサポートを行う。

【実施日】

2019 年、6/22、9/14、10/26、11/16、11/30

【主催者】

主催：関西大学住環境デザイン研究室

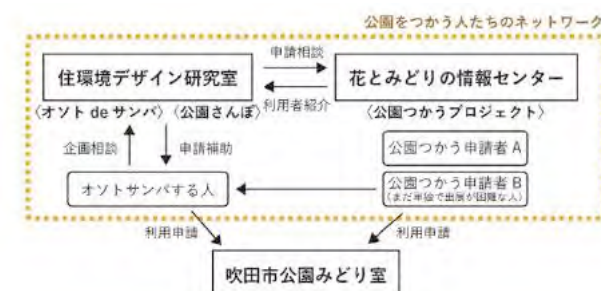
協力：吹田市花とみどりの情報センター

【実施場所】



千里南公園内マップ

【活動形態】



千里南公園利用者相関図（イメージ）

3. オソト de サンパの実施の様子



6/22

公園内にスツールの設置

公園内で人が佇める空間がうまれた



6/22 公園内に掲示板となるお話ポスト設置



11/4
吹田市はなみどフェアにて共同で出展した様子



10/26 サンパに参加した出展さんと地域の方とのコミュニケーションの場



11/16 オソト de サンパでの出展の様子



ハンドドリップの時間に公園利用者と交流



11/30 常連さんとの会話もはずむ



11/30 日常の公園の風景

4. 公園内における利用実態・行動調査

【調査目的】

千里南公園の「どこ」が「どのように」利用されているのかを明らかにすることで、今後のより良い公園計画や公園管理を考える。

本調査では主に 2017 年に行った同様の調査との比較から、2019 年 2 月に公園内にオープンしたレストランへの影響を考える。

【調査方法】

- ① 公園内の決められたルート歩き、カメラで利用者を撮影する。
- ② 撮影した動画を見ながら、地図に利用者情報と行動内容を記録する。
- ③ この結果を自在に重ね、2017 年の同様の調査と比較しながら千里南公園の利用傾向の変化を捉える。

【調査日時】

2019 年 10/26、11/26、11/30、12/7、12/14
(全て土曜日、計 5 日間) の 11:30、12:30、13:30、14:30(1 日 4 回) に実施。

調査ルート



【調査項目】

利用者情報 ▶色

高校生以下 18才以降 60才未満 60才以上

利用状況 ▶形

動き 止まる

体 ウォーキング / ランニング / 体操	写 写真を撮る	休 休憩 / 携帯を触る / ぼーっとしてる
歩 ただ歩いている / 散歩	釣 釣り	美 草木に手入れ / ゴミ拾い
自転車に乗っている	本 読書	餌 鯉や魚に餌やり
犬の散歩	話 話す	音 歌う / 楽器の演奏
遊ぶ / 虫取り / 踊る	食 飲食	並 カフェに並んでいる
	鑑 鳥の鑑賞 / 草花の鑑賞	

【調査結果】

属性別で分類してみる

公園利用者によって利用エリアに偏りが見られた。〈高校生以下〉は遊具や円形広場を多く利用している。〈18-60 才〉はカフェ周辺の利用が多く見られた。〈60 才以上〉は湖畔の利用が現れている。



2017 年と比べるとレストラン・駐車場周辺には変化が見られるが公園全体では大きな変化は見られなかった。

PICK UP!!

2019 年 2 月にオープンしたカフェレストラン「バードツリー」が公園利用にどのような変化をもたらしたのか!! 2017 年に実施した同調査との比較から考えていこう!



5. 千里南公園以外での出展について



2020/01/18 @大阪府営服部緑地（豊中市）
ヒアリング調査時。ふるまいコーヒーを片手に、
ヒアリングを受けている様子。



公共空間等のあり方を皆で考える場にも登場
@吹田市はなとみどりの情報センター



6. 夜間における公園利用の検討を実施

昼間だけでなく、夜間における公園の実態も調べていく。

今回は自分たちで照明を持ち寄り、どのように見えるのかを体験した。

夜も安全だと感じる公園になればいいと思う。



@千里南公園

7. 新しくできたカフェと協力しながら カフェ・公園利用実態をアンケート調査



@千里南公園

8. 最後に

これまでの調査の蓄積から見てきた公園内外の変化による人々の変化を、吹田市の方々や市民さんと協力する事で、より自由で楽しい公園の在り方の提言に繋げていきたいと思ひます。

自然物が創る街の魅力に関する研究その2

北陸ブロック 鏑 隆弘、上坂達朗、新田川貴之

前期に続く調査として、山の眺めとしては富山県高岡市、富山市において検討を行った。また樹木・樹林の例では、金沢市内において道路や緑地の形態が移りゆくなか、都市景観の中で目立つ形に取り残されて生育する樹木を取り上げ、その見え方について検討を行った。

1. 山

1-1 富山県高岡市 駅南大通り

高岡駅と新幹線が止まる新高岡駅の間は、四車線の広い道路により結ばれている。この通りにおいて、北向きには高岡駅舎の屋根越しに二上山(標高 274m)の一部を、南向きには砺波市庄川町にある鉢伏山(標高 510m)を望むことができる。道路両側の歩道に沿って比較的小さな間隔で植えられたスズカケノキの街路樹が緑の壁を形成し、沿線の建物を隠蔽している。中央分離帯には2mほどの高さに石灯籠が並び、自然物と対照的な人為要素として焦点となる山への眺望を強調する形となっている。

1-2 富山県富山市 富山大橋西詰

富山大橋の西詰からは正面に立山を望むことができる。橋は歩行者、自動車、路面電車が通行し、橋の中央部には路面電車の架線を支える街灯を備えた柱が並んでいる。歩道上から眺める場合には橋上には、街灯や標識などの眺望を阻害するような構造物はない。立山は連峰として屏風のように連なった形であり、シンボリックな山の形の眺めとはならな



南方向への眺め 鉢伏山



北方向への眺め 二上山

いものの、両側の直線的な柵が強力に連峰の一部へ視線を誘導している。人為的な直線の柵と対比的に山の自然形態が強調されている。午前中は添付写真のように逆光となり、立体感に乏しい。午後からは順光となり凹凸が照らし出され自然物としての特徴をより強力に示す。11~6月の冠雪期の晴天日においては、雪により凹凸のコントラストが明瞭となり、一日の変化をよりはっきりと眺めることができる。季節による変化、一日における変化が景観に大きな魅力を与える好例である。



立山への眺め 秋季午後



本多通りのモミノキ



立山への眺め 夏期午前

2. 樹木・樹林

2-1 石川県金沢市 本多通り【旧制石川県立金沢第一中学校校庭のモミノキ】

軍都・学都として賑わいを見せていた金沢の中心部で、明治後期から昭和初期にかけて、本多町にあった旧制第一中学校の校庭正門脇の植樹帯と樹木が、その後の都市計画道路(現在の本多通り)建設の際に残された。モミノキは北へ向かう1車線を占め、南側から眺めると手前の交差点の広がりの方こうに道路を狭めた形で見えている。道路反対側のユリノキなどの街路樹に比べると一際高く、また枝を水平に伸ばした樹形も背景の街路樹とは異なり、目立つ存在となっている。一日中陽が当たって見えるため、存在感は大きい。特に午前中は背後の街路樹が陰影を見せるため、モミノキだけが目立つ形となる。通勤時間帯は北へ向かう自動車が多く、運転に注意も必要ことから、人々に与える印象は強いと思

われる。北側からは、周囲の低木植栽とともに大きな緑のボリュームとして存在感を示している。

2-2 金沢21世紀美術館敷地【高等師範学校校庭の樹木】

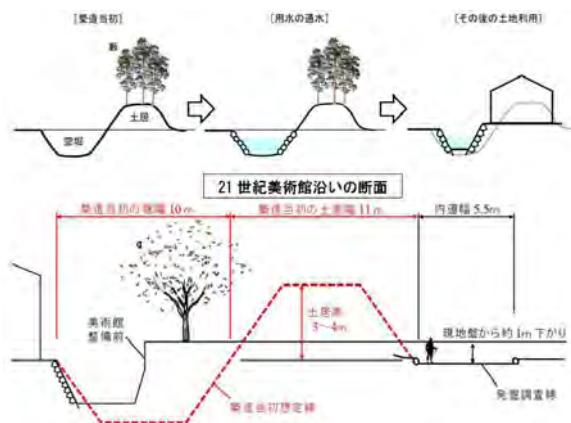
1889年(明治22年)、現在の21世紀美術館の地に石川県尋常師範学校が移転、その後、石川県師範学校と改められ、1908年(明治41年)同敷地内に石川県女子師範学校が分立された。その後、同敷地は石川県立金沢第二高等女学校、金沢大学付属小学校へと変遷してきた。その間、校庭と隣接宅地との間の緩衝緑地として植えられたマツなどの樹木は、21世紀美術館外構整備においても残され、本多通りの街路樹と合わせて、緑に囲まれた美術館となった。



金沢21世紀美術館敷地の樹木

これら樹木は東西方向に伸びる歩行路沿いにあり、眺めの中では美術館の曲面ガラスに映り込んだものと合わせ、異なる見え方も含め両側に大きな緑のボリュームを展開している。

樹木の植栽時期は、江戸期において金沢城西外惣構の土居に植えられた樹木ではないかとする説があるが、寛政7年金沢図に描かれている惣構の幅と21世紀美術館建設前に行われた遺構調査をもとに検証すると、堀が埋め立てられた後に植えられたものと想定される。女学校があった当時、西外惣構堀には豊富な水が流れており、女学生たちはライン川と呼んでいたそう。現在の本多公園あたりの湧き水や、松風閣庭園を経て流れ来る辰巳用水の落水などが合わさり、勢いよく流れていたものと思われる。



2-3 石川県金沢市 高岡町 橋場・若宮線【旧武家屋敷庭園のクスノキ】

金沢市内中心部の住宅地を貫通する幹線道路、橋場・若宮線は、平成10年頃から約10年かけて建設された。藩政時代、加賀藩の重臣だった長家や前田土佐守家の大きな屋敷をはじめとする武家地跡を通るルートで、沿線の武家屋敷跡の庭園木が道路敷きにかかったが、伐採することなく歩道の中に、かつて庭園が存在したことを示すことのシンボルとして残された。

北陸地方の冷涼な気候の元ではクスノキは自生していない。また緑化樹としても用いられることは少ない。地域ではこのように見かけにくい樹種であり、丸々と葉を繁らす樹形、葉の光沢、常緑でありながら日光を透過させる様子はとても異質な存在である。造ら



旧武家屋敷庭園のクスノキ 東から



旧武家屋敷庭園のクスノキ 西から

れた道路は、植栽帯や街路樹も設けられておらず、道路の開通と合わせて造られた新しい建物ファサードが連続する殺風景な眺めを持っている。その中に生育するクスノキは背景の堀内の庭園樹とともに、殺伐さを和らげている。

2-4 石川県金沢市 鞍月用水・せせらぎ通り【用水整備で残されたエノキ】

江戸期に作られた鞍月用水の石積み壁面から生育しているエノキである。1990年代末からの開渠化整備の際、伐採することなく残された。歩道部舗装も根の周りに余裕を持たせて



鞍月用水の中に生育するエノキ

樹木の生育に配慮された。樹木は植栽されたものではなく、石積みの隙間に着生した種子から生育したものと思われる。

この用水は城の惣構の堀として整備された。用水左側はかつては自然の段差を利用した土居が築かれ、竹木が植えられていたと伝えられている。明治以降に土居が壊され、建物が建てられた。1960年ごろのモータリゼーションの元、用水は暗きょ化され、駐車ができるように幅の広い個人所有の橋が水面を覆うようになった。90年代になってようやく開渠化され、水面が見えるようになった。用水沿いの道路地中部分は無電柱化により埋設物がひしめき合っている。将来的にもこの通りが緑化される可能性は少ないと思われる。通りの写真は北西からの眺めである。通り景観の中の唯一の緑として、背景に広がるコンクリート群の眺めを和らげている。

3. まとめ

今回取り上げた事例からは、山については、視点場付近の近景との対比が魅力的な眺めを作る重要な要素であることが確認できた。樹木については、都市の中の開発から取り残されたものを取り上げた。割と速度の大きな人為活動の対比として、長く生育している樹木は自然性の強い近景を形成していることが確認できた。

当初の計画では、北陸ブロック内のいくつかの都市を訪れ、調査を行う予定であったが、北陸の特徴である冬季の雨天曇天や外出が制限される状況に遭遇し、調査機会を逸して中断した状態にいることは残念である。ここで止めることなく、都市内において自然物が形成している魅力的な眺めを探し、今後の都市景観、地域景観形成の糧としたい。

ローカル線の環境デザインセミナーⅢ

中部ブロック 柳田良造

はじめに

2017年からスタートした中部ブロックのローカル線の環境デザインセミナーの第3弾である。地域の歴史や、地形、環境の特色を探りつつ、ローカル線を地域の生活軸、空間軸としての意味から再考し、沿線地域の環境づくりの可能性を考察するものである。栗原さんという鉄ちゃんの出現により、関西、関東からのファンという参加者も増え、今まで経験したことのない旅を目指そうということであった。第1回が三重の名松線、第2回が愛知の武豊線と蒲郡線、第3回が静岡の大井川鐵道をめぐる旅であった。

ローカル線の環境デザインⅢの①

名松線と雲出川、旧伊勢街道を旅する

日 時：2019年11月16日（土）

場 所：三重県津市、松阪市

参加人数：11名

9時半にJR松阪駅集合。名松線（めいしょうせん）は、三重県松阪市の松阪駅から同県津市の伊勢奥津駅に至るJR東海の鉄道路線である。開業は昭和4年（1929）、もともとは名張と松阪を結ぶ計画であったことから、両都市の頭文字をとって名松線と名付けられた。昭和5年（1930）に参宮急行電鉄が現在の近鉄大阪線・山田線にあたる桜井駅 - 名張駅 - 伊勢中川駅 - 松阪駅 - 伊勢市駅間を開通させたため、旅客輸送目的で名松線は建設意義を失い、伊勢奥津駅までの開通となる。2009年10月29日、台風18号による災害のため名松線は不通となる。

2019 - 20 ローカル線の環境デザインⅢの① 名松線と雲出川、旧伊勢街道を旅する

■ 2019年11月16日（土）

09:30 JR松阪駅改札集合
09:38～11:02 松阪駅から名松線伊勢奥津（いせおきつ）駅まで乗車
11:05～11:20 北畠神社へ移動（タクシーまたはレンタサイクル）
11:20～12:00 北畠神社、北畠氏館跡、伊勢街道見学
12:00～12:15 北畠神社から伊勢奥津駅移動（タクシーまたはレンタサイクル）
12:15～13:00 伊勢奥津駅周辺見学（昼食）
13:06～14:30 伊勢奥津駅から松阪駅まで乗車
14:40～17:30 松阪の歴史的町並見学
17:30～19:30 松阪で懇親会（松阪牛を味わう）
19:38～20:49 松阪駅から名古屋駅（JRワイドビュー南紀8号）へ移動後解散

●名松線

名松線（めいしょうせん）は、三重県松阪市の松阪駅から同県津市の伊勢奥津駅に至るJR東海の鉄道路線である。開業は1929年、雲出川の渓流沿いを走るローカル線でももとは名張と松阪を結ぶ計画であったことから、両都市の頭文字をとって名松線と名付けられた。しかし、1930年に参宮急行電鉄が現在の近鉄大阪線・山田線にあたる桜井駅 - 名張駅 - 伊勢中川駅 - 松阪駅 - 伊勢市駅間を開通させたため、松阪 - 名張間の旅客輸送目的で名松線は建設意義を失った格好になり、1935年までに松阪駅 - 伊勢奥津駅間を開通させたにとどまった。2009年10月29日、台風18号による災害のため不通となり、一部復旧以降も家城駅 - 伊勢奥津駅間は運行ができない状態が続いた。JR東海は路線廃止の方針を打ち出すが、地元の熱心な働きかけもあり、2016年3月26日伊勢奥津駅を松阪駅行きの一番列車が発出、運休から実に6年半ぶりの全線復旧となった。

●雲出川・北畠神社・北畠氏館跡・伊勢街道

名松線は雲出川（くもづがわ）の景観が素晴らしい。終点の伊勢奥津駅から北畠神社・北畠氏館跡・伊勢街道も。



雲出川を渡る名松線



北畠氏館跡



北畠神社



都市環境デザイン会議・中部ブロック

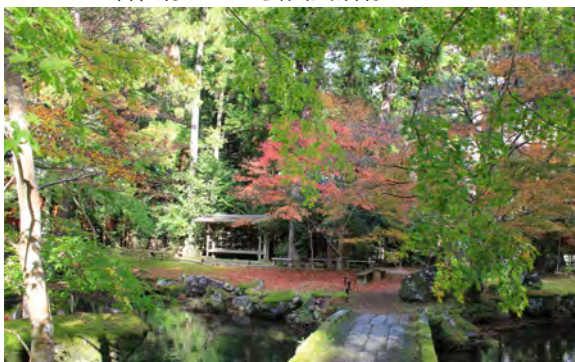
ローカル線の環境デザインⅢの① 名松線と雲出川、旧伊勢街道を旅する

2009年10月29日、台風18号による災害のため不通となり、一部復旧以降も家城駅 - 伊勢奥津駅間は運行ができない状態が続いた。JR東海は路線廃止の方針を打ち出すが、地元の熱心な働きかけもあり、2016年3月26日運休から実に6年半ぶりの全線復旧となった。

雲出川（くもづかわ）沿いを走る列車からの川と沿線の農村風景は楽しめる。終点の伊勢奥津から訪ねる予定にしている北畠神社は5,6kmはある。タクシーは遠い家城や名張にしかなく、レンタル自転車も途中はかなりの坂道でこれも無理そうで、交通手段をどうしようかと悩む。仕方がないので奥津駅の隣の道の駅に相談の電話をしたところ、〇〇さんが車をだしてくれることになったから大丈夫、という返事をいただき一安心で奥津に向かうことになった。奥津駅に着くと、駅前にマイクロバスのような車が停まっていて、これかなと思い聞くと、〇〇さんらしい。みんな乗り込んで出発。途中、〇〇さんは奥津地域の解説までしてくれる。無事、北畠神社に着いて、お礼をするともに、料金はいくらですかと聞くと、いやこれはボランティアだからと言って、受け取る気配が全然



名松線からの雲出川沿線



北畠館跡の庭園

ない。こちらはびっくりというか、恐縮して、改めてお礼を言うが、帰りも列車の予定の時間の30分前に来てあげると、ますます恐縮する。

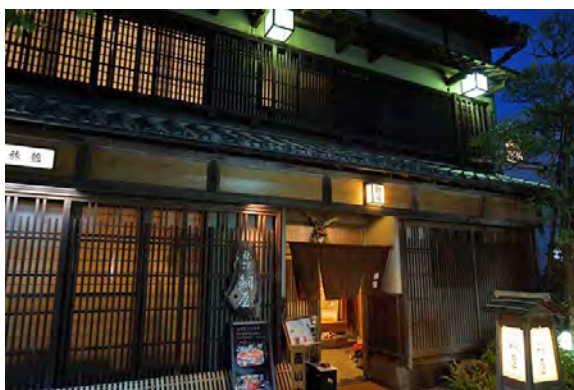
北畠神社は旧伊勢街道に面するが、その町並みがなかなかいい。北畠神社の境内にある北畠氏館跡庭園なかなか素晴らしい。北畠神社は、南北朝時代、後醍醐天皇の建武政権期に、伊勢国に下り、国司として、当時退潮していた南朝の軍事的支柱となった公家・武将の北畠顕能（あきよし）を主祭神とする。

帰りはまた伊勢奥津駅から列車の旅。3時前に松阪に戻る。松阪の町並みもなかなかすごい。空襲で焼けていない町で、三井家など松阪商人の豪邸、梶井基次郎の小説「城のある町にて」で描かれた城下の佇まいも見応えがある。特に御城番屋敷はみごとで現在も住居となっている。

夕方、街中に戻って、鯛屋旅館という江戸期から続く老舗で、松阪牛のすきやきを楽しむ。女将さんが部屋に来てくれて、鯛屋旅館の歴史を語ってくれる。栗原さんの楽しそうな表情が今も忘れられない。栗原さんとはこの日が最後になった。



御城番屋敷



鯛屋旅館

ローカル線の環境デザインセミナーⅢの②

武豊線と蒲郡線・三河湾の海と陸の接点

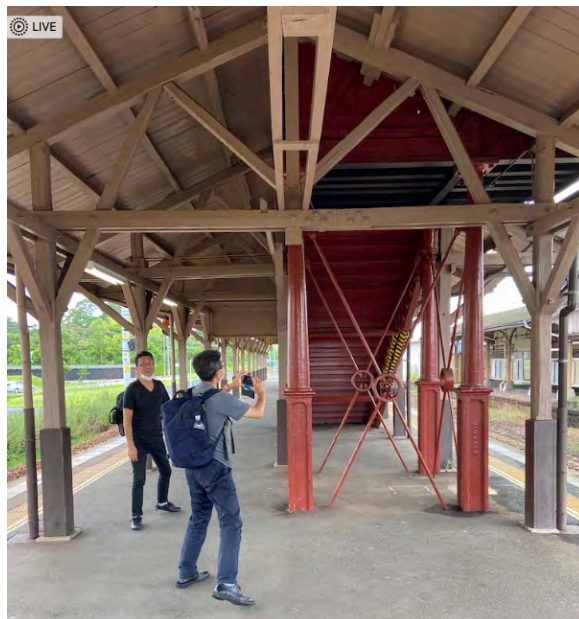
日 時：2020年6月28日（日）

場 所：愛知県大府市、武豊町、半田市、西尾市、蒲郡市

参加人数：10名

JR大府駅に9時集合し、まずメンバーの河崎さんが若かりし頃に設計した街角の小スペースと道のデザインを見学。大府駅からJRで終点の武豊まで行く。30分ほどで着く短い路線だが、実は愛知県で初めて建設された鉄道路線で、1886年（明治19年）3月1日に開業。中山道鉄道（東京 - 大阪間に建設される鉄道は当初は国防上の理由から中山道経由とされた。しかし難工事が予想され、現在の東海道本線に変更になった）の建設資材を、武豊港（衣浦港）から陸揚げし運搬するために敷設された由緒ある路線なのである。武豊港（衣浦港）は古くから知られた港であったが鉄道開通により、一躍三河湾の海の玄関口となり明治大正期には大いに栄えたが、現在の駅そのものには見るものはないが、周辺には鉄道の転車台や古い町並みなど残る。

しかし残念ながら時間がなく（今日のツアーは見学場所がいっぱいなのである）、つぎの電車で二つほど駅を戻った半田に戻ることにする。半田駅の跨線橋はJRで現存する最古のものでホームの上屋も含め、なかなかの佇まい。ホームに少し設えてカフェにしても面白いようにおも



半田駅の跨線橋とホームの上屋

栗原メモリアル

ローカル線の環境デザインⅢの②

武豊線と蒲郡線・三河湾の海と陸の接点

■ 2020年6月28日（日）

09:00 JR大府駅東口改札前集合
09:35～10:09 大府駅から武豊駅へ移動（武豊線）
10:25～10:31 武豊駅見学後武豊駅から半田駅へ移動
10:35～12:35 半田駅周辺の町並み（ミツカンミュージアムなど）見学
12:44～12:50 半田駅から亀崎駅まで移動（タクシー）
13:00～14:30 亀崎の名料亭・望洲楼で昼食と周辺町並見学
14:30～14:50 望洲楼から西尾駅へ移動（タクシー）
15:13～15:25 西尾駅から吉良吉田駅へ移動（名鉄西尾線）
15:31～15:40 吉良吉田駅から東幡豆（はず）駅へ移動（蒲郡線）後、周辺見学
16:11～16:31 東幡豆駅から蒲郡駅へ移動（蒲郡線）
17:30～20:00 蒲郡クラシックホテルで懇親会後、蒲郡駅に戻り解散

武豊線と名鉄蒲郡線

武豊線（たけとよせん）は、愛知県の東大府駅から同県知多郡武豊町の武豊駅に至る、JR東海の鉄道路線であり、知多半島の東側を通り、名古屋への通勤・通学路線となっている。もともとは1886年（明治19年）3月1日に中山道鉄道（東京 - 大阪間に建設される鉄道は当初国防上の理由から中山道経由とされた）の建設資材を、武豊港（衣浦港）から陸揚げし運搬するために敷設された路線である。愛知県で初めて建設された鉄道路線として、武豊駅 - 熱田駅間が1886年（明治19年）3月1日に開業。しかし、中山道経由では難工事が予想されることから同年7月19日に東京 - 大阪間の鉄道は東海道経由に変更となり、浜松駅 - 大府駅間が1888年（明治21年）に開業すると大府駅 - 武豊駅間は支線となった。1909年（明治42年）の線路名称制定で正式に武豊線と命名される。

蒲郡線（がまごおりせん）は、愛知県西尾市の吉良吉田駅から蒲郡市の蒲郡駅までを結ぶ名古屋鉄道（名鉄）の鉄道路線である。1920年（大正9年）12月、三河鉄道が三河吉田駅（現、吉良吉田駅） - 蒲郡駅間の免許を取得。1936年（昭和11年）11月10日に三河鹿島駅 - 蒲郡駅間が開業し、全通した。

風光明媚な三河湾に沿って走る路線で、沿線には形原温泉、西浦温泉、吉良温泉、愛知こどもの国など温泉地やレジャー施設があり、潮干狩りや海水浴など季節のレジャーも楽しめる。かつては大山線や知多新線と並ぶ観光路線として脚光を浴び、多数の本線直通特急が運転されていた。しかしレジャーの多様化や三河湾観光の衰退に伴い、通勤路線へと変貌していった。2008年（平成20年）6月のダイヤ改正で西尾線との直通列車が消滅し、現在は線内折り返しのワンマン運転のみとなっている。利用者数の激減や国道247号など並行道路の整備状態から存続問題が浮上している。

JUDI 中部ブロック



ローカル線の環境デザインセミナーⅢの② 武豊線と蒲郡線・三河湾の海と陸の接点

える。JR 半田駅前は何とも寂し場所だが、SLの展示が見られる。展示のC型は動輪が3つで、あの「デコイチ」はD型で動輪が4つだそう。今回のツアーは流石に鉄道に詳しい人が多く、教えてもらえることが多い。

しばらく歩くとミツカン本社とミュージアム、運河の景観に出くわす。20年ほど前にもJUDIのツアーで来たことのある場所だが、かなり建て替えられて変わった印象はあるが、黒のミツカンの建物群の存在感は十分である。中埜半六邸庭園を見学し、紺屋海道という変わった名前の小径をレンガ造のカブトビール工場まで歩く。そこからタクシーで半田界限でもう一つの見学場所、亀崎までいく。

亀崎も武豊港開港以降やはり開港場として栄えた場所で、町並みにその面影が残るが、今日の訪問の一番の楽しみは望州楼という斜面を登るように建てられた老舗料亭での昼食である。席は3階の海を望む座敷。亭主自ら宴席にいらして亀崎の町と料亭の歴史を語ってくれる。こ



半田の運河とミツカン



斜面を登るように建つ料亭・望州楼

ういう席での亭主の地域の解説は、ローカル線ツアーの恒例行事、楽しみの一つである。一番の発見は座敷から望む入江（衣浦）は尾張と三河の国境で、これから行く向こう側の西尾市は三河なのである。タクシーで、国境を超え、つぎの目的地の西尾に向かうが、河崎さん情報で、衣浦トンネル（日本初の沈埋式海底トンネルで土木的にも面白い場所）を通って行くが、実は随分と大回りしたことになり、3台に分乗したタクシー料金が1台あたり7千円を超え、びっくり。もちろんこの代金はプロジェクトの助成金から支出。西尾駅前の広場は、想定外の広さ。遊ぶ人達の国籍も様々な感じで、ここでもちょっとびっくり。

西尾駅から名鉄に乗り、吉良吉田駅へ。吉良吉田で同じ名鉄の蒲郡線に乗り換え、今日の最終目的地の蒲郡を目指す。吉良吉田からの蒲郡線は三河湾沿いに走るの、海を眺める景観を期待したが、魅力的な場所には出くわすこともなく、気がつくと蒲郡駅に到着していた。

駅から歩いて最後のお楽しみのお丘の上に建つ蒲郡クラシックホテルを目指す、その前に棧橋を渡り竹島詣を楽しむ。蒲郡クラシックホテルは昭和初期に国の観光政策として各地に建てられた洋風ホテル（雲仙、上高地など）の一つ。経営は当時から何度か変わっているが、今もレストランは本格的フレンチらしく、なかなか高級な感じ。我々の2階のテラスに開かれたバーでの慰労会も三河湾の多島海のような眺めと初夏の少し汗ばむ気候のなか、冷えたジントニックの味わいが、なかなかのものでした。



蒲郡クラシックホテル2階テラスからの三河湾の眺め

ローカル線の環境デザインⅢの③

紅葉の大井川鐵道と東海道島田宿・金谷宿を満喫

日 時：2020 年 11 月 28 日（土）

場 所：静岡県静岡市、島田市

参加人数：9 名

大井川鐵道は大正 14 年（1925）3 月、大井川上流部の電源開発と森林資源の輸送を目的として会社が創立された。昭和 6 年（1931）に金谷～千頭間が全通し、それまでのイカダと船、峠越えの馬、徒歩以外に交通手段のなかったこの地域の生活を一変させた。以降、昭和 34 年（1959）には中部電力所有の専用軌道に移管し井川線（南アルプスあぶとライン）の運行を開始する。昭和 51 年（1976）には大井川本線で、いち早く S L の復活運転を実施し、観光鉄道として全国的な知名度を獲得する。

鉄道の始発である金谷（新金谷）は、島田と並んで東海道五十三次 23,24 番目の宿場で大井川兩岸に位置した。増水で大井川の川越が禁止されると江戸へ下る旅客が足止めされ、宿場

大変な賑わいであったと言われる。

今回は 9 時に JR 島田駅に集合し、タクシーに乗り、蓬萊橋へ。世界一長い木造の橋（下部の柱・梁は R C）、を渡る。風が強く、高さも 10m ほどあり、欄干の低くやや怖い。遠望の富士山も眺められ、橋からの景観はなかなかのもの。またタクシーに乗り、大井川沿いの川越史跡を訪れる。東海道の「越すに越されぬ大井川」の川越の場所の町並みが彷彿とされ、面白い。保存されたというより整備された感じだが、こんな場所があるとは知らなかった。茶店で甘酒を頂く。またタクシーに乗り、大



蓬萊橋

栗原メモリアル

2020 ローカル線の環境デザインⅢの③ 紅葉の大井川鐵道と東海道島田宿・金谷宿を満喫

■ 2020 年 11 月 28 日（土）

09：00 JR 島田駅集合
09：15～10：00 世界一長い木造橋・蓬萊橋を渡り戻る
10：15～10：45 旧東海道・島田宿の川越跡見学
10：50～11：10 島田宿から新金谷駅へ移動
11：10～11：40 新金谷駅の転車台・プラザロコの見学
11：52～13：09 新金谷駅から千頭駅へ移動（S L・駅弁）
13：10～14：40 千頭駅周辺見学
14：44～15：35 千頭駅から長島ダム駅へ移動（井川線）
15：43～16：34 長島ダム駅から千頭駅へ移動（井川線）
16：51～17：58 千頭駅から新金谷駅へ移動
18：00～20：00 旧金谷宿の料亭おせんで懇親会
20：14～20：18 新金谷駅から金谷駅に戻り解散



世界一長い木造橋・蓬萊橋



千頭駅の S L

大井川鐵道

鉄道路線は大井川本線と井川線（南アルプスあぶとライン）を有する。大井川本線は金谷から千頭間 39.5 km、蒸気機関車（S L）の動態保存で有名。井川線は千頭・井川間 25.5 km で日本唯一のアプト式ラック鉄道。

大井川鐵道は 1925 年（大正 14 年）3 月、大井川上流部の電源開発と森林資源の輸送を目的として創立された。1931 年（昭和 6 年）に金谷～千頭間が全通。それまでのイカダと船、峠越えの馬、徒歩以外に交通手段のなかったこの地域の生活を一変させた。以降、1959 年（昭和 34 年）には中部電力所有の専用軌道に移管し井川線（南アルプスあぶとライン）の運行を開始する。1976 年（昭和 51 年）には大井川本線で、いち早く S L の復活運転を実施し、観光鉄道として全国的な知名度を獲得する。現在でもほぼ毎日運転されている。また、蒸気機関車の保存運転を行っている縁から、1977 年（昭和 52 年）12 月 19 日にスイスのブリエンツ・ロートホルン鉄道と姉妹鉄道提携を結んでいる。大井川鐵道の鉄道事業収入は、沿線人口の減少などから、現在はその 9 割を S L 列車への乗車を目的とする観光客から得る構造となっている。大井川鐵道にはかつて以下の鉄道計画が存在したが実現することはなかった。井川線延長計画・井川線を堂平駅（廃止）から井川村の中心部を経て桃の木島平付近まで延長する計画があった。また御前崎線・新金谷駅から御前崎へ至る鉄道計画も出願準備中されたが、中止となった。

旧東海道島田宿・金谷宿

島田、金谷は東海道五十三次 23,24 番目の宿場で大井川兩岸に位置した。増水で大井川の川越が禁止されると江戸へ下る旅客が足止めされ、宿場大変な賑わいであった。その金谷宿の面影を伝える老舗料亭おせんで懇親会。



アプト式鉄道の井川線



料亭 おせん



都市環境デザイン会議中部ブロック

ローカル線の環境デザインⅢの③ 紅葉の大井川鐵道と東海道島田宿・金谷宿を満喫

井川を渡り、対岸の金谷側へ移動。金屋に今日のメインの大井川鉄道の出発の駅、新金谷駅がある。駅舎も下見板張りでなかなかだが、前の建物の切符売り場が大きく、駅弁売り場も充実していて、期待も高まる。観光客も多く、特に小さな子供づれの家族が多い。出発が近づいて、改札を抜けると、SLのC型と客車の7両ほどで、本格的な列車の設え。SLのC型は武豊線の半田駅まえに展示してあったが、実際に動くのを体験できるのはすごい。製造は80年前で、動輪部分のデテールがカッコいい。客車の室内は懐かしい感じで四人がけのボックスシートに三人座って、弁当をひろげる。出発すると、SLの煙がたなびいて、沿線の人たちがみんな列車に向かって手をふってくれる。大井川沿いを走るが川幅が中流域でもとても広く、長良川と比べると3、4倍ある感じ。車内にくる売子の話が面白く、ゼンマイで動くSLのオモチャを、つい買ってしまう。大井川本線の終着駅千頭駅内



SL C型



客車内

には南海や近鉄の懐かしい電車や機関車トーマスもとまっている。千頭からアプト式鉄道の大井川線に乗る。線路幅は普通サイズだが、車両が小さくトロコ列車に乗っている感じ。アプトいちしろー長島ダムの間は急勾配（1000mで90m上る）で、大きな電気機関車がおして、アプト式の歯車を噛んで走る。

大井川鉄道は、駅員さんはじめみんなが楽しそうに働いている。終点の新金谷近くに35年ぶりに新設された駅がある。そのひとつ「門出」には駅前に11月中旬にできたばかりの、大井川沿の農作物を集めた県内最大規模のフードパーク「KADODE OOIGAWA」が併設されている。大井川鉄道が単なる観光鉄道ではなく、地域の生活基幹軸として機能していることを実感する。懇親会は金谷の老舗割烹「おせん」。四代目の若い女将が座敷にきて挨拶してくれる。予想以上に見事な室内と庭と料理、これもまたなかなかのものでした。



懇親会での老舗割烹「おせん」

まとめ

ローカル線の電車を媒介にしたセミナーツアー（地域小旅行）は楽しい、地域の再発見の旅であり、環境、暮らし、人との新たな出会いがあった。ゆったり景色を眺めながら、名物駅弁をたべながらの談笑、地域の人達の観察、実に興味深いものであった。ローカル線という交通手段を使い地域を訪れるということは地形、空間、環境、歴史、暮らし、文化、食をトータルなかたちで「地域の文脈」として経験するものであった。これは得難い体験である。3年間の9回のローカル線の環境デザイン成果は、「地域の文脈から捉える」ローカル線として、新たな論考をまとめたいと考えている。